

教員採用試験受験における STEAM 教育の活用実践（受験報告） その 1

安藤 樹*

1. 受験の概要

筆者が教員採用試験で合格した自治体は、北海道・山形県・大阪市・和歌山県・高知県・愛媛県・大分県・宮崎県の 8 か所である。本稿では、そのうち STEAM Lab カリキュラム・マネジメント部門長としての活動実績や教育実習の研究授業などで取り組んだ内容をどのように受験時にアピールし、合格にたどり着けたのか、その体験についてまとめておきたい。

2. 北海道

北海道では、エントリーシート（面接個票）の「教科指導、食に関する指導、生徒指導、教育相談、教育実習、体験学習等の重点的に履修した分野又は専門の教科や領域に関して努力していること」の項目に「iPad と apple pencil を用いた手書き機能と HDMI を用いたミラーリング等の ICT 活用」を盛り込んだ。

二次試験の面接時には「最近気になったニュース」の質問に、「小学校で教科担任制になったこと。専科担当でも貢献できるように STEAM Lab に所属して理科や算数を中心に教科横断的な学習活動をしている」と回答し、STEAM Lab に興味を持った面接官から具体的な組織の特徴やカリキュラム・マネジメント部門長としての苦労などを尋ねられた。

さらに、ボランティア等の資格経験を記載する欄には「STEAM Lab（カリキュラム・マネジメント部門）部門長」と記入し、成果をアピールした。

3. 山形県

山形県では、志望動機に教育実習での研究授業を軸とした ICT 活用に関する経験や専門性を盛り込んだ。面接では山形県の教員として取り組みたいことを尋ねられ、大学で学んだ ICT 活用、具体的には教育実習での研究授業である第一学年算数科「水のかさ」の直接比較で、水が溢れる＝移動前の容器の方がかさ大きいと実感するために用いたように、日常のつながりを意識した

動画作成などの経験をアピールした。

4. 大阪市

大阪市では、エントリーシート（面接個票）の指導できる部・クラブの欄に「科学（STEAM Lab 学生部カリキュラム・マネジメント部門長）」、志望動機に「塾や教育実習で日常生活と関連付けた授業の ICT 活用に取り組んだ」点を盛り込んだ。

面接では、大阪市外で育った大阪人がなぜ大阪市を受験したのかとの質問に「所属している教育工学のゼミで BYOD（Bring Your Own Device）を活かした一人一台の ICT 環境の中で、手書き資料の活用などのアナログとデジタルの融合に取り組んだ成果を ICT 教育に力を入れている大阪市で貢献したい」と回答し、地元に近い環境で自分の特徴や経験に向いている自治体を希望した点をアピールした。

5. 和歌山県

和歌山県では、エントリーシート（面接個票）の「今まで最も困難と感じた課題や状況と、それをいかに乗り越え、結果として何を得たのか。」の欄に下記の内容を盛り込んだ。

教育実習では児童の発言に応じた授業展開に苦労し、準備の重要性を実感した。自らの役割を必死に果たし、謙虚と感謝を全面に示す持ち前の「ハムスターの愛嬌」で、校長や他校の恩師、大学の仲間等の指導や協力を得ながら、研究授業では ICT を用いて児童の日常生活との関連に着目した動画教材の作成や iPad と ApplePencil を用いた手書き機能、ミラーリング等の工夫に努め、協働的解決に必要な「共助力」を磨いた。

面接では今後の ICT の具体的活用について質問があり、「ICT は手段であって目的ではないので、児童の理解が深まる活用を心掛けたい。例えば国語科の比喩の学習では、『バケツの水をひっくり返したような光』を再現する動画を作って見せるなど、実体験でできないことが体験できる魅力を理解につなげたい」と答えた。

*大阪大谷大学開沼ゼミ 4 年生

6. 高知県

高知県では、エントリーシート（面接個票）の「これまで力を入れて取り組んできたこと」の項目に下記の内容を盛り込んだ。

大学のゼミでは「授業や校務における ICT の活用」をテーマに学んできた。それまで携帯電話のメールもともに扱えない素人の状態から、一人一台タブレットを使えるゼミ内の BYOD 環境を活用し、授業課題や配布資料をカメラやスキャナーで取り込んでデータを管理したり、作成した教材をワイヤレス共有するなどの基本的な使い方から「まず使ってみる」実践に努めた。特に力を入れたのが「iPad の手書き機能と手作り教材を融合」である。iPad と apple pencil を用いた手書き機能と HDMI を用いたミラーリングによる電子黒板への投影等の技法をプレゼンテーションやグループワーク等の演習で活用した。先例のない用途や周囲の好奇の目も気にせず堂々と取り組める自分の持ち味を活かしスキルアップを図った。

面接では児童への指導や校務における ICT 活用のあり方を個別に問われ、いずれも教員が便利と思える実感をもって使う重要性に言及した。

7. 愛媛県

愛媛県では、エントリーシートに記した「STEAM Lab（カリキュラム・マネジメント部門）部門長」について面接で質問があり、算数科と日常生活とのつながりに関する ICT を用いたカリキュラム・マネジメントについて説明を行った。続けて ICT を使う上で大切にしたい点を尋ねられ、ICT は手段であって目的ではないので、児童の理解に繋がったり、校務を効率化して児童と向き合う機会を増やしたり、分かりやすい授業を作る時間を確保する旨回答した。

8. 大分県

大分県では、エントリーシート（面接個票）の「達成感があつた経験」欄に下記の項目を盛り込んだ。

大学では持ち前の「信じる度胸」でゼミ長として BYOD を率先活用し、STEAM Lab 部門長として日常生活とのつながりを意識したカリキュラム・マネジメント

を探究した。その結果、教育実習で算数科1年「水のかさ」の直接比較で夕食の食卓の再現から「あふれる＝かさ大きい」との反応を得たり、塾講師で国語科4年「比喻」で「バケツをひっくり返した光」の仮想体験を通じて理解の深化を図った。

また、「どのようなところが教師にむいてるか」の欄では「iPad と apple pencil を用いた手書き機能を活用した研究授業」をアピールした。

大分県は大分大学に STEAM Lab があり、STEAM 教育の推進に非常に熱心なこともあって、面接では非常に興味をもって話を聞いていただいた。特に、教育工学のゼミに所属して ICT を活用して、日常と繋げるカリキュラム・マネジメントに取り組んできた点をアピールした。

9. 宮崎県

宮崎県では、エントリーシート（面接個票）の「特技・趣味・資格・卒論やゼミを生かして取り組みたい教育活動」欄に下記の項目を盛り込んだ。

卒論は「説得力の構成要素に関する実証的研究」をテーマに整理検証を行った。ゼミでは「ICT の手書き機能と手作り教材の融合」を学んできた。以上の学習成果に興味や特技である図工や料理、体育等の技能を活かし、日常生活と授業のねらいとの関連性を意識して、iPad と apple pencil を用いた紙媒体の電子化や手書き入力、ミラーリングによる電子黒板への投影等の工夫を通じた説得力のある授業展開を図りたい。

面接では、宮崎県が力を入れている「教育の情報化」と「特別支援教育」に焦点を絞って自分の貢献できる点をアピールした。

10. おわりに

本報告で取り上げた自治体を受験するにあたっては、50以上の自治体に願ひし、多くのエントリーシートを書いていく中でアピールの内容も固まっていた。結果として8か所から合格通知をいただき、第一希望である大阪市の教員として4月から勤務予定である。本報告を参考に、自らの夢や目標に向かって全力を尽くして、悔いのない大学生活を送っていただきたい。

(2021年2月17日 受理)